令和８年度　教育実践部門
対面型分科会社会発表資料

つなげて考え続ける子～社会と自分とのつながりに気付く教師の指導と支援～

小千谷市立小千谷中学校
西川　慧（令和３年度）

【主張】
中学校学習指導要領社会では、目標として「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す」と示されている。この目標を実現するためには、生徒が社会的な課題を自分とは無関係なものとして捉えるのではなく、社会の一員として自分の生活との関わりを考え、主体的に判断することが重要である。
その出発点として、社会的事象と自分とのつながりに気付くことが必要であると考えた。一見自分とは関係がないように見える社会的事象も、様々な事象を介して自分の生活とつながっている。そして、そのつながりに気付くことが、社会的事象を「自分ごと」として捉え、主体的に考え続けることにつながると考えた。
そこで本実践では、社会的事象と自分とのつながりに気付き、これまでの学びや他の社会的事象と関連付けながら考え続ける生徒の育成を目指した。そのために、教材や単元構成、教師の指導と支援の在り方を工夫し、その有効性について実践を通して検証した。

１　主題設定の理由

中学校学習指導要領社会では、知識を習得するだけではなく、社会的事象を多面的・多角的に捉え、自ら課題を追究していくことが求められている。しかし、授業では知識の理解に重点を置いてしまうことが多く、学習した内容を自分自身や現代社会と結び付けて考える場面が十分とは言えない現状がある。また、単元ごとの学習が途切れてしまい、これまでの学びを関連付けながら考え続けることにも課題が見られる。

本校では、社会科に対して興味・関心をもつ生徒がいる一方で、「覚えれば点数が取れる」「暗記が得意だから」と捉えている生徒も多く見られる。また、社会的事象を理解する知識は身に付いていても、それを自分の生活や社会とのつながりの中で考える姿は少なかった。さらに、自分の考えをもっていても、他者との意見交流を通して考えを深めたり、自信をもって伝えたりすることに課題が見られた。

そこで、社会的事象と自分とのつながりに気付き、これまでの学びや他の社会的事象と関連付けながら考え続ける生徒を育成するためには、教材の選定や問いの構成、対話を通して考えを深める教師の指導と支援を工夫することが必要であると考え、本主題を設定した。

２　目指す生徒の姿

本実践では、社会的事象を単なる知識として理解するのではなく、社会と自分とのつながりを見いだし、「自分ごと」として捉えながら問いを追究し続ける生徒を目指した。そのために、資料を根拠に自分の考えをもち、仲間との意見交流を通して多様な見方・考え方に触れ、自分の考えを見直したり深めたりする姿を大切にした。また、学習した内容を他の社会的事象や現代社会と関連付けながら考え、よりよい社会の実現に向けて主体的に判断しようとする姿を育成したいと考えた。